

長野市石渡 運動公園東団地 公園 再び交流の場に



運動公園東団地内の公園で開いた
寄せ植え講座を楽しむ住民たち

長野市石渡の「運動公園東団地」の住民有志約20人でつくる「いの会」が、団地内の公園を幅広い年代が交流する場にしようと活動している。少子化もあって荒れていた公園を2014年から整備し、さまざまな催しを開催。16日は花の寄せ植え講座を開き、約20人が楽しんだ。

同会会長の倉沢利夫さん（67）によると、同団地は30〜20年前に宅地分譲され、現在104世帯。市が所有する約450平方メートルの公園は、かつては子どもの遊び場として住民が丁寧に管理していたが、少子化で関心が薄れがちに。「草で覆われるようになり、さらに住民の目が向かなくなる」（倉沢さん）という悪循環だった。

住民が有志の会 花壇作りや講座

住民から13年には「公園を市に返上しては」との提案まで出た。だが、これが転機となった。「ちよっと待って」。高齢者が増えているからこそ、住民の孤立を防ぐ交流拠点にしたいと倉沢さんらが手を挙げ、同会を結成。草刈りや花壇作りのほか、会員が趣味で育てたスズムシの配布会なども開き、子どもを含め住民が再び立ち寄るようになった。

16日は会員が持ち寄ったテントを公園内に張り、団地内にある園芸店の店員を講師に招いた。ラベンダーやツタなどの寄せ植えを作った女性（70）は「公園に来るのは久しぶり。こうして地域で団結するのは大事なことだね」と笑顔を見せた。

倉沢さんによると、同会のメンバーは若い頃、「仕事漬け」で近所付き合いが乏しかった60〜70代の男性を中心に構成する。公園の活性化は「私たち自身の仲間づくりや楽しみになっている」といい、茶話会や芋煮会など、さまざまな交流イベントのアイデアが出ているという。